



ふるさと 歳時記

ゆのぼり 熊野本宮大社の湯登神事

熊野本宮大社の例大祭は、4月13日の「湯登神事」から始まります。宮司以下の神職・氏子・伶人（楽人）・氏子総代・稚児（2、3歳の男児）ら総勢40～50人が列を成して湯の峰温泉を出発し、太鼓に合わせて神歌を歌いながら熊野本宮大社を目指します。熊野の神は稚児の頭に宿るとされており、神事の間以外は稚児を地面に降ろしてはならず、移動の際はウマ役の父親が肩車をします。（県の無形民俗文化財指定）

The annual festival of the Kumano Hongu Taisha grand shrine commences on April 13th with rites of purification at the Yunomine Onsen (Hot Spring). A procession of forty to fifty people then embarks for the shrine, singing sacred songs to the rhythm of taiko drums.



まちを彩る時代絵巻

田辺祭

県の無形民俗文化財である田辺祭は、世界遺産に登録された鬨籠神社の祭礼であり、450年以上の歴史をもつ紀南地方最大の祭礼にして「紀州三大祭」の一つにも数えられます。元和五年（1619年）徳川頼宣が新たに紀州藩主となり、その附家老であった安藤直次が田辺領主となった際に城下町の整備が行われ、その頃に現在のような祭の形式が整いました。田辺祭が行われるのは7月24日、25日の2日間。うだるような暑さの中、各町（旧城下の8つの商人町）の笠鉾が旧市内を曳き回すその様子は、京都の祇園祭に似ているといわれています。祭りには「お旅所勤め」「住矢の走り」「会津橋曳き揃えく曳き別れ」「七度半の使い」「流籠馬式」といった見どころも多く、県内外から多くの見物客が訪れます。



きならさんばそう 杵荒神社の三番叟

毎年10月上旬、中辺路町栗栖川の杵荒神社境内で安産・縁結び・五穀豊穡を祈願し、3日間奉納芝居を行います。江戸時代中期から約300年の伝統が受け継がれており、現在も地区の青年が中心となって小学生たちも加わり保存、継承しています。（市の無形文化財指定）



上野の獅子舞

下川下にある春日神社の秋の例祭に奉納される獅子舞の歴史は古く、室町時代まで遡ります。毎年11月3日に行われ、五穀豊穡と地域の安全を祈願して舞われるこの獅子舞は、「上野獅子舞保存会」によって継承されています。（県の無形民俗文化財指定）



おいえ 小家神楽

龍神村甲斐ノ川にある荒島神社で、毎年11月3日に行われる一年間の豊年満作・家内安全・交通安全などの感謝の秋祭りに奉納される神楽です。祭りの最初に福井・甲斐ノ川・小家の3地区が一度に獅子頭合わせを行い、神輿の聞きあいや獅子舞など、見事な神楽が演じられます。（市の無形民俗文化財指定）



野中の獅子舞

毎年1月3日と11月3日に中辺路町の近野神社と継桜王子へ奉納される獅子舞です。南北朝時代の初期、近露の野長瀬一族が、大塔宮護良親王の御軍の士気を高める出陣の舞としてこの獅子舞を演舞したと伝えられています。今日の獅子舞は、江戸時代末期に土地の庄屋が従来の古座流の舞に新しい流儀を取り入れて完成したといわれています。（県の無形民俗文化財指定）



芳養八幡神社の秋祭

平安時代から続く歴史ある神社で、毎年11月2日、3日にかけて行われる祭礼では、八幡神の勧請を模した神輿渡御が行われるほか、見どころの流籠馬や馬駆神事では、氏子や観衆の喝采が響きます。また、宮入の時などで歌われる馬子歌は情趣に富んでいます。（県の無形民俗文化財指定）